国立台湾大学獣医学部学部長の周晉澄教授の報告

2015 年 6 月に学生 4 名を引率して麻布大学獣医学部を訪問しました。麻布大学が実施している“ダウンタイム”は口蹄疫に対する防御策として実施され、来日一週間前に偶蹄類と接触してはならないとしています。家畜感染症に対する防疫の概念が徹底していることに、先ず感銘を受けました。過去に日本で発生した口蹄疫がわずか数ヵ月で終息したことは、このような防疫観念と関連があるからだと考えられます。麻布大学の防疫対策は、台湾の防疫関係者たちも参考にすべき措置です。

到着翌日、夕方には歓迎会に招待されました。そこで麻布大学獣医学部長をはじめ、大学の諸役職者ならびに国際交流関係の先生方と歓談し、交流の輪を広げることができました。

大学付属施設として動物病院を見学しました。建物はそれほど大きくはありませんが、空間が非常に有効に利用されており、診療設備や検査設備は十分に備えられていることが印象的でした。この動物病院は二次診療制度で、患畜数は年間約 15,000 件あるそうです。

授業として、獣医学科の寄生虫学の実習を見学しました。各クラス 72 名で 2 クラスからなっており、学生それぞれに双眼顕微鏡が与えられています。皆まじめに寄生虫の標本などを観察し、スケッチを描いていました。実習の最後には、担当の先生が学生一人一人に当日勉強した内容を質問して習熟度を確認し、先生の質問に答えられない学生は、もう一度自分の席に戻って勉強し直しでした。

麻布大学の学生総数は約 3,000 人で、大学の主収入は学費であるそうです。教員数は少ないながらも、教育と研究に熱心で研究成果も顕著です。その例として、麻布大学の教員らによる研究が今年 4 月の Science 誌の表紙面に掲載され、高い研究レベルであることが分かります。